

PRIMEQUEST 4000シリーズ ファームウェアアップデート 手順書

7版

2025年4月

エフサステクノロジーズ株式会社



1. はじめに
2. 事前準備
3. ファームウェアアップデート手順
4. 事後作業

1. はじめに (1/5)

1-1. 統合ファームウェアファイル

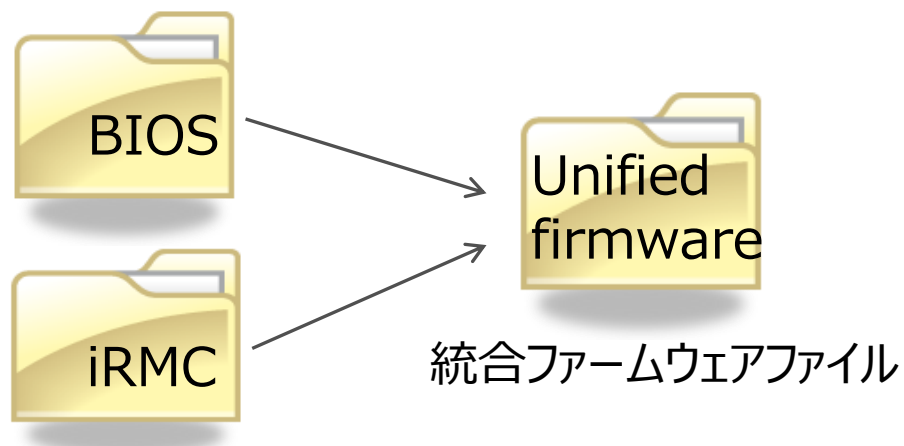
PRIMEQUEST 4000シリーズのファームウェアをアップデートする場合、統合ファームウェアファイルを使用します。統合ファームウェアファイルは以下の2つのファームウェアが同梱されています。

- iRMCファームウェア
- BIOSファームウェア

ファイル名:

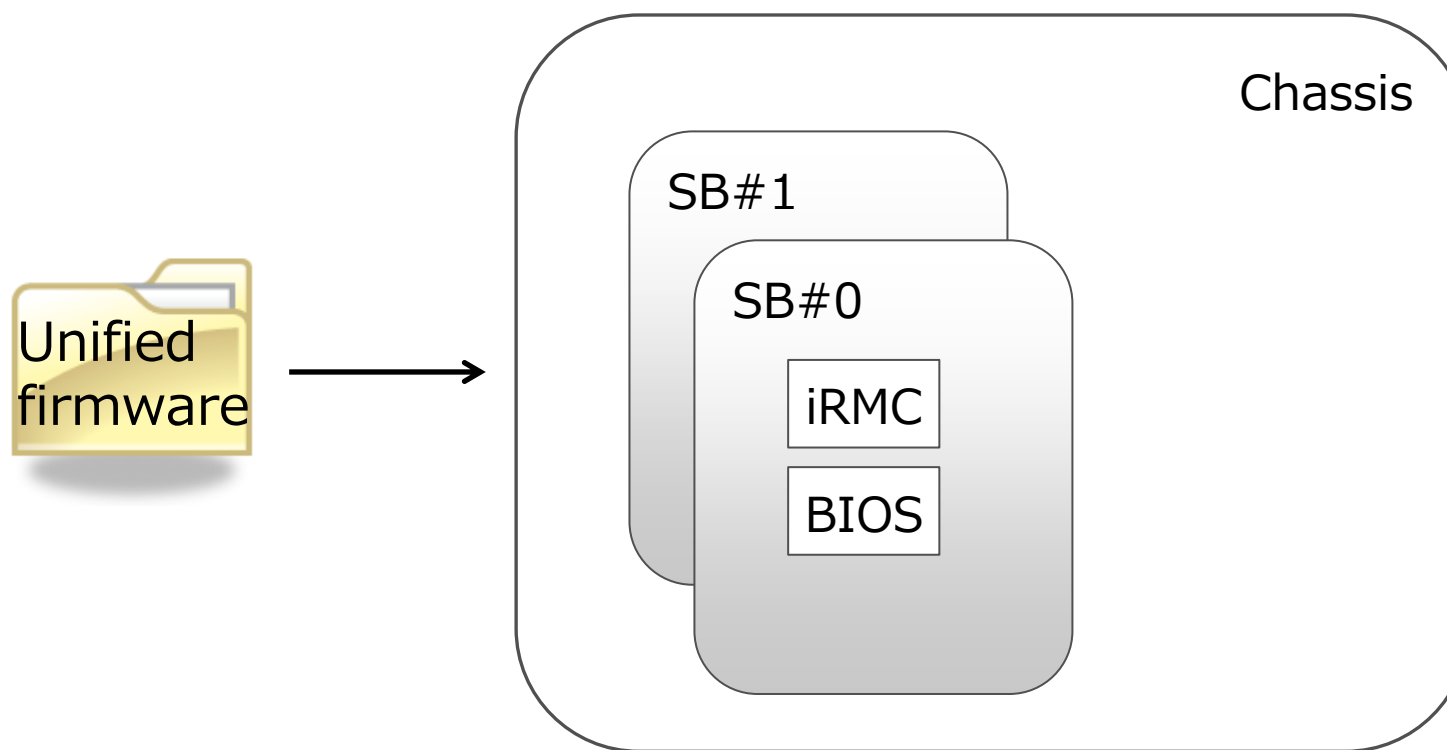
PRIMEQUEST4000_FAxxxxxx.tar.gz

xxxxxx: 統合ファームウェア版数



1-2. ファームウェア更新

統合ファームウェアのアップデートが実行されると、筐体に搭載されている全てのiRMCファームウェアおよびBIOSが更新されます。



1-3. パーティション状態

[注意事項]

ファームウェアアップデートが実行されている間は、該当パーティションの電源Offまたは電源Onを実施しないでください。

1-4. 新ファームウェア版数に切り替わるタイミング

新ファームウェア版数に切り替わるタイミングは以下に示す通りです。

ファームウェアアップデート開始時のシステム構成およびパーティション状態によって、新ファームウェア版数に切り替わるタイミングが異なります。

ファームウェアアップデート開始時のパーティション状態	iRMC、BIOS版数の切り替わりタイミング
全パーティションPower Off (オフラインアップデート)	ファームウェアアップデートが完了した時
1つ以上のパーティションが、 BootまたはOS Runningの場合 (オンラインアップデート)	全パーティションがPower Off状態に遷移し、自動で開始されるファームウェアアップデートが完了した時(*)

(*)ファームウェアアップデートを実行する際に、本体の統合版数がFA14002版以前の場合は各パーティションがPower Off状態に遷移した時、意図せずPower Offしたパーティションへファームウェア更新を開始してしまうため、手動で全パーティションをPower Offする必要があります。詳細については、制限留意事項を参照してください。

ファームウェアアップデートにかかる時間については、1-5を参照してください。

1-5. ファームウェアアップデート時間

以下の構成におけるファームウェアアップデート時間を示します。

[SB x2台の場合]

BIOS : 10

iRMC : 20

合計 : 30

※ 時間単位 : 分

いずれも目安時間であり、記載された時間でファームウェアアップデートが完了することを示すものではありません。

2. 事前準備 (1/2)

- Web-UI を操作してファームウェアアップデートの一連の作業を実行するため、作業期間中、管理LAN に接続した作業用パソコンを一台割りつけてください。
- iRMC Web-UI の Power Restore Policy が「Always power on」でないことを確認してください。「Always power on」になっている場合は「Always power off」に変更してください。
- スケジュール運転機構を使用している場合、ファームウェアアップデートを行なう時間帯と、対象装置のスケジュール運転機構による電源操作スケジュールが重なっていないことを確認してください。スケジュールが重なっている場合、スケジュール運転を事前にオフにしてください。
- BIOSメニューのIntel TXT Supportが「Enabled」でないことを確認してください。「Enabled」になっている場合は「Disabled」に変更してください。

2. 事前準備 (2/2)

- SBの正常確認について
装置に搭載されている各SBが正常であることを確認してください。
- FA14002版以前からFA15003版以降へアップデートする場合
事前にBIOSメニューの
「Boot」->「Boot Maintenance Manager」->「Boot Options」->
「Delete Boot Option」にてブートオプションのエントリ総数が87個以内であることを
確認してください。
87個以内の場合は「Discard Changes and Exit」を選択して
「Delete Boot Option」を抜けてください。
87個を超えている場合は87個以内になるように設定を変更してください。
87個を超えた状態でアップデートした場合はパーティションが起動できず以下のSELが
ログされます。
 - 「BIOS POST Watchdog - Action: Timer Interrupt」
 - 「BIOS POST Watchdog - Action: Power Cycle (Post Code: 0x72)」

3.ファームウェアアップデート手順

- ご案内

具体的なファームウェアアップデート手順はハードウェアマニュアル「iRMC S6 コンフィグレーションとメンテナンス」の「7.ファームウェアアップデート」をご参照ください。

- スケジュール運転や「Always power on」を事前作業で解除していた場合は、再度有効にしてください。
- Intel TXT Supportを事前作業で「Disabled」に変更していた場合、「Enabled」に設定してください。
- PRIMEQUEST 4000シリーズ 制限・留意事項一覧
iRMC(38)に記載された問題はFA15003版以降で制限解除しています。
Bonding有効で使いたい場合は、Web-UI > 管理 > 詳細設定 > ネットワークインターフェイス > 管理ネットワークインターフェイスで、「Bondingを有効にする」にチェックを付けてください。

- Windows Server 2022を使用している装置で、以下の条件で OEM Windowsライセンスが無効になりWindowsの再認証が必要になる場合があります。
※この時サーバは正常に動作しており機能制限ありません。

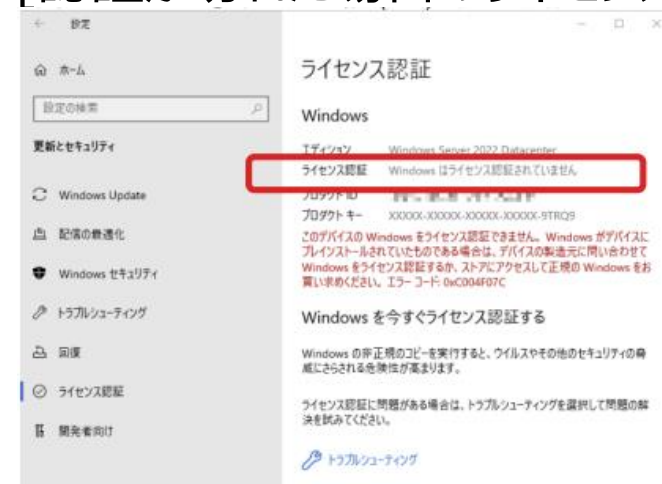
[条件]

統合ファーム版数がFA16001以前の装置で統合ファームアップを実行した場合
(FA17001版以降で制限解除しています)

[認証が切れた場合の画面表示]



[認証が切れた場合のライセンス認証画面]



対処

- OEMライセンスが無効となった場合は、OSを起動してプロダクトキーの入力をお願いします。

対象製品

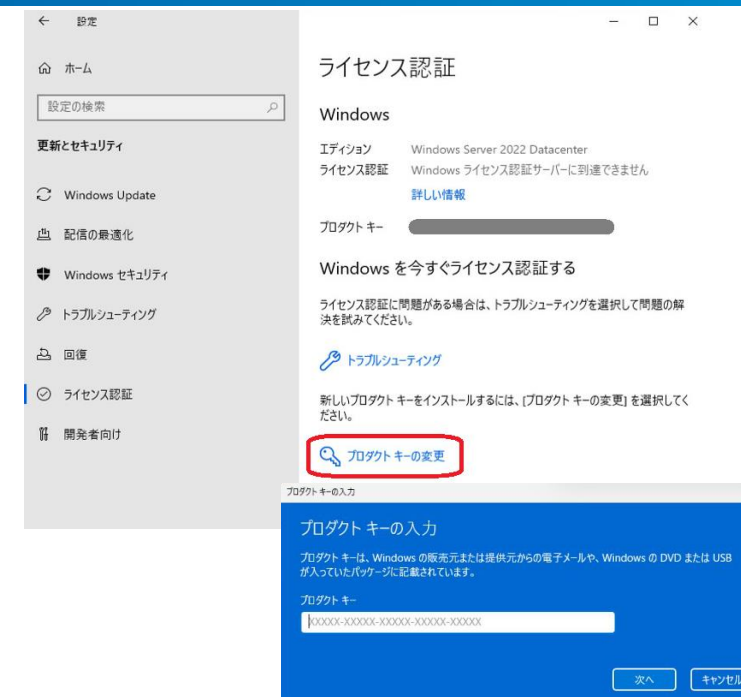
- Microsoft Windows Server 2022 Standard イネーブルキット (16 コアライセンス)
- Microsoft Windows Server 2022 Datacenter イネーブルキット (16コアライセンス)

4.事後作業 (4/6)

- ライセンス認証方法

- 手順1

ライセンス認証が無効の場合、プロダクトキー(※2)の入力をお願いします。
Windowsの設定>システム>ライセンス認証>プロダクトキーの変更
(※2) プロダクトキー(25桁)は筐体後部側面COAラベルに記載されています。

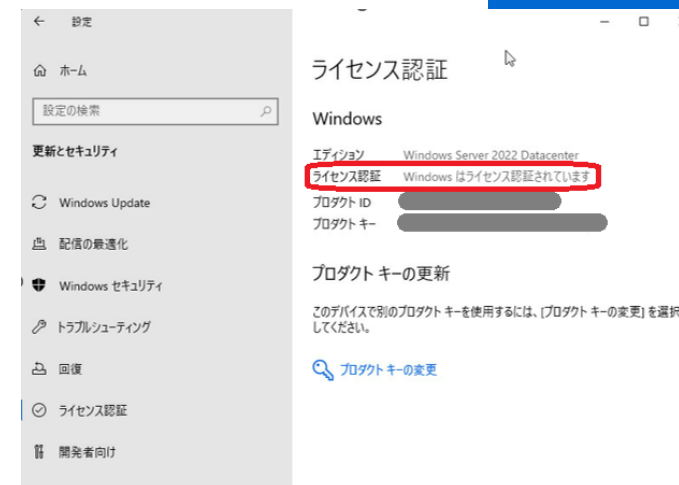


- 手順2

Windowsライセンス認証の確認

Windowsの設定>システム>ライセンス認証>ライセンス認証
にてライセンス認証が有効であることの確認をお願いします。

有効の場合: 「Windowsはライセンス認証されています」



- 参考 - プロダクトキー(25桁)の記載位置
 - 「イネーブルキットのCOAおよびハイセイフティ用途」に記載されている右の図の通り、筐体後部側面にCOAラベルが貼付されています。



XXXXXX-XXXXXX-XXXXXX-XXXXXX-XXXXXX(25文字の英数字)

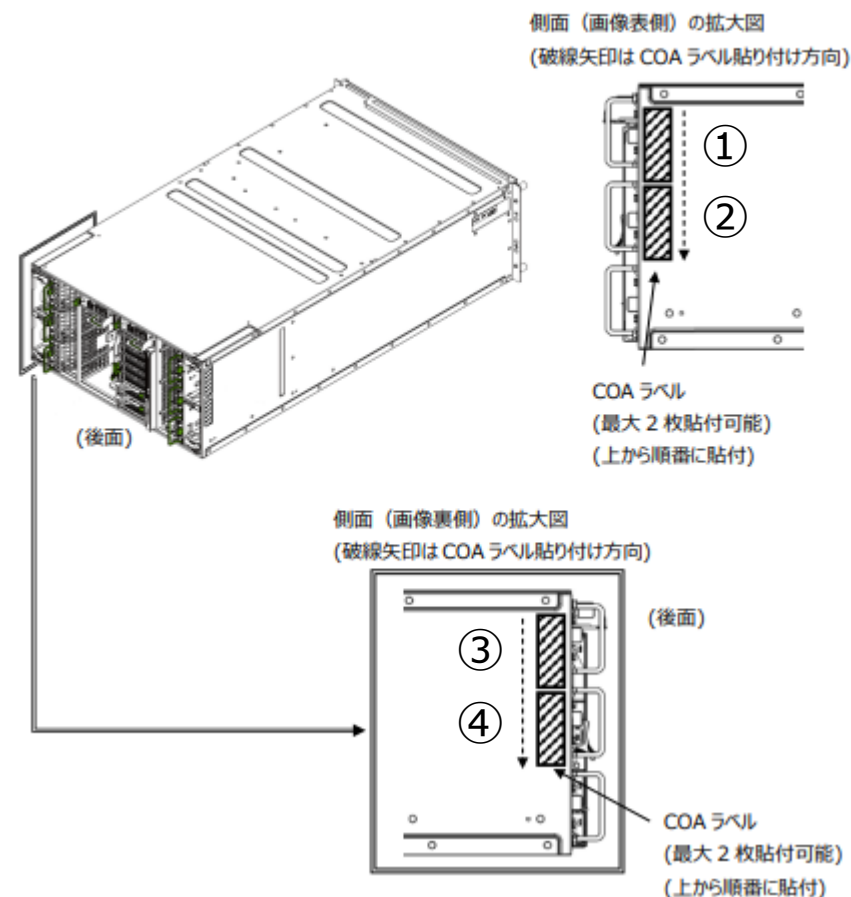
メモなどで、プロダクトキーを記録している場合は、そのプロダクトキーの入力をお願いします。

プロダクトキーを記録していない場合は、ラックと筐体の隙間からCOAラベルが参照をお願いします。

2.2 COA ラベル貼付位置について

● PQ4000シリーズ

基本筐体後部側面の下記の斜線部分  に貼付。

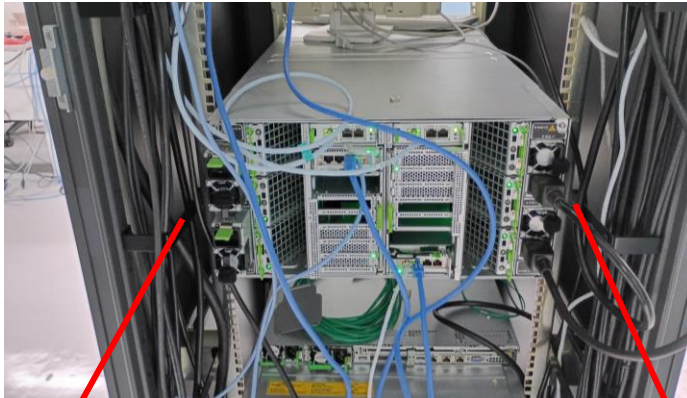


COAラベルは①→②→③→④の順に貼られます

4.事後作業 (6/6)

COAラベル位置

標準ラック



スリムラック

